

# 11章 家族ストレス論的アプローチ

- 家族ストレス論：災害研究、医学・精神医学の家族研究、家族危機に関わる社会学研究から始まる
- R.Hill Families under Stress 1949
- ABC-X モデル：ストレス源 \* 家族の危機対応資源 \* 家族による出来事への意味づけ→危機状況
- roller-coasterモデル：disorganization →recovery  
→reorganization 家族は危機に対応、調整・適応する
- MaCubbin,H.L.1983 二重ABC-X モデル：Hill モデルの統合 危機と適応をまとめる FAARモデル詳しすぎ？
- 家族ストレス論への批判 1)ストレスは個人でしか計測不能 2)トートロジー 全体としてのストレスの大きさ、家族資源のレパートリー・機能、適応能力等は、家族が維持・復元されたことをもって遡源的に推測されるのみ。

# 12章 相互作用論的アプローチ

- Symbolic interactionism Blummer, H.G.1969
- 1)人はシンボルを用い、解釈行為をする、2)社会的自我と主我との対話による自省、3)個人は社会に生まれる、4)人間の行為水準は、動物行動や生理的行動と異なる
- 家族社会学研究への応用
- 1)子供の発達論、家族危機への成員の対応
- 2)配偶者選択の過程 後知恵的？
- 3)家族内相互作用 小説の方が上？
- 相互作用論的アプローチの限界
- 1)認識よし、しかし、観察、測定方法の確立が？
- 2)家族の意味世界の機微、外部者に分かるか？
- 3)現象学的社会学もそうだが、家族を客体として扱う研究には向かない方法。主観的家族論への応用。

# 13章 交換論的アプローチ

- 交換論と家族研究：アメリカ社会学における合理的選択理論の隆盛（個人の選択の集合としての社会現象）
- 社会的交換論：G.C.Homans『社会行動』誠信書房。（個人は報酬を最大に、費用を最小にしようとする→個人が他者に依存するとき、権力が発生する）Peter Blau『交換と権力』新曜社。（交換の互惠性が統合を生み、互惠性の失敗が権力を生む）
- Nye, F Ivan, Family Relationship: Rewards and Cost 1982  
クイズ：結婚の解消を報酬・費用で説明せよ
- 交換論の限界1) 家族は合理的行為により生み出された？なぜ、子供を産む？2) 個人の選択がどう集合化されて社会的規範になるのか？3) アメリカ社会の規範（合理的選択、自己責任）こそが、交換論の原理であるが、他社会には異なる伝統・規範が存在する→アメリカでさえも適用可能か、不明な部分が多い。